



student

世界大学野球選手権大会で
日本代表メンバーに選抜
銅メダル獲得に貢献



岩館 学君

(経営学部3年・硬式野球部所属)

岩館君は8月にイタリアで行われた「第1回世界大学野球選手権大会」で日本代表メンバーに選抜され、初戦(予選リーグ・対フランス戦)では本塁打を放つなどの活躍を見せた。この大会、日本はキューバ、アメリカに次いで3位となり、銅メダルを獲得した。

野球があまりメジャーではないヨー

ロッパでの開催だけに、マウンドを自分達で作ったり、相手チームのバットが試合中に足りなくなり「売ってくれ」と言われたこともあったとか。優勝国のキューバ、準優勝のアメリカは、「やはり強かった。投手力に関しては互角以上の力を持っていたが、攻撃力に関してはパワーとスピードの違いを思い知らされた」。今後の課題を見つけられたことが大きな収穫となったという。

小学3年のころ3歳上の兄が野球を始めたのが野球との出会い。高校(千葉県・成田高校)にはピッチャーとして入学したが、高校2年の秋にケガをした選手の穴埋めでショートを守って以来、「守備範囲も広く、ひろい視野が求められるこのショートというポジションにこだわってやっていきたい」と思うようになったという。

普段は川越キャンパスにある合宿所で寝起きし、朝9時から夕方の5~6時くらいまでグラウンドで練習している。

練習のない日はテレビでプロ野球やメジャーリーグを観戦して、体を休めて疲れを取ることに専念している。

将来の目標はプロで活躍することだ。「松坂世代」と呼ばれ、今ドラフトでも注目を集める日本代表メンバーに選抜されたことで周囲の期待も高まる。現在プロ野球で活躍している本学卒業生の清水・川中・三浦選手(ともに読売巨人軍)や桧山・今岡・福原選手(ともに阪神タイガース)に続け、とプロからも注目されている。「自分としては、臨機応変に対応できるバッティングと、走か守をレベルアップしてアピールポイントにしたい」と語る。

現在行われている秋季リーグ戦では、「個人的には打率3割以上を目標に、チャンスに強い打者になりたい」。1年のときに東都リーグで優勝したが、「上級生に引っ張ってもらっていた感じだったので今度は主軸としてチームを優勝に導ければ...」と抱負を語った。

完成まぢか

白山再開発カウントダウン

● 甬水の森に新モニュメント出現！

この9月に、甬水の森入り口左側(京北学園寄り)に銀色の時計塔が完成しました。高さは約15メートル、ステンレス製です。全体のフォルムは水晶の結晶に似た形で、三角形を組み合わせたデザインは、東洋大学と父母と卒業生の3者の連携を示しています。また、塔の頂点は、そのベースの上に学生の皆さんが本学の教育理念である「諸学の基礎は哲学にあり」を通して学び、社会に飛び立ってほしい、という願いが象徴されています。癒しの空間としてゆったりと穏やかな印象の甬水の森の中に、一際鋭く知的な雰囲気空間を引き締めています。

● あなたの知らないディープな世界・・・

前回は井上記念館の建物の概要や施設設備の配置等について書きましたが、今回は皆さんが足を踏み入れることのない、知られざる地下の世界(室)をそっとうご紹介します。

既存校舎のフロア案内を見て気付く方もいると思いますが、各校舎の地下階には教室以外に機械室、電気室等が配置されています。井上記念館でも建物を維持管理するための施設設備として、電気の供給、空調の熱源(冷・暖気を

つくる装置) 関連施設等言わば心臓部があります。また、その他にも大学を陰で支えている方々(清掃員等)の控え室も配置されています。ん？そのぐらい知っているって??

しかしそれだけではありません！さらにその下に巨大な水槽が！！消火水槽・雨水槽・排水槽・汚水槽等があり、災害に備えるもの、キャンパスに降った雨を蓄え中水としてトイレ等の水として再利用するもの、地下湧水を蓄える湧水槽なんていうのもあり、文字通り縁の下の力持ちとして存在しているのです。地下にあり、普段は耳にしない特殊な施設で、目に見えないところで大学を支えるという、どれもキーワードはまさにディープ(深い)な世界でした・・・。

今度、フロア案内で馴染みのない室名を見たら、日々快適に安心して建物が利用できる様、目に見えないところで建物を管理している世界があることを思い出してみてください。

(完成まであと162日。

平成14年10月20日現在)

